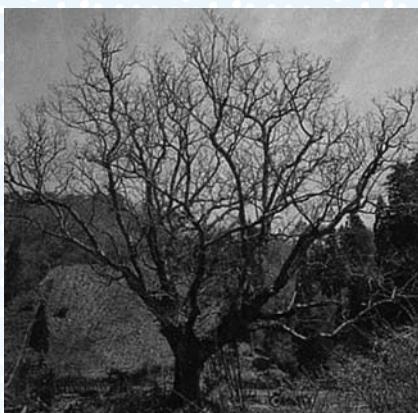


千年の古木

羽出西谷の県道下和奥津川西線を西に進み、大樹橋の手前で北に若曾川沿いに北へ約100m進むと、左側の道端にトチの木の古木があります。これが、町指定天然記念物である「大樹の木」です。

推定樹齢は一、〇〇〇〇年と言われています。一、〇〇〇年前といえば平安時代にあたりますが、この当時の史料はありませんので、この樹齢を証明する根拠はなく、あくまでも地域に伝わる伝承として推定されているものです。しかし、この辺りには「大樹」「樹の木」などの小字名もあることから、古くからこの木があること



昭和30年代前半頃の大樹の木



平成22年



栃木神社

幹は空洞となつており、その中に「栃木神社」明治二十二年五月吉日」と自然石に刻んだ石造物が置かれています。このことから、明治時代にはすでに古木として神聖視され、信仰の対象にもなつてていたのでしょうか。また、この木からとれたトチの実は不老長寿の効果があり、栃餅にして食べてましたとも言われています。

羽出には、江戸時代に「木地師」とよばれる木で盆や椀

ちなみに、近隣の古木でいえば、真庭市の醍醐桜が推定樹齢一、〇〇〇〇年、奈義町の菩提寺の大イチヨウが九〇〇年以上と言われていますので、県下でも有名な巨樹と肩を並べるくらいの古さになります。目通り周囲7mを測り、地上3mあたりのところで数本の枝幹に分かれていることから、かつてはこの幹が大きく

昭和十六年（一九四一）には、県の天然記念物に指定されています。たようですが、後に指定解除になり、昭和六〇年（一九八五）に奥津町指定文化財になっています。

幹は空洞となつており、その中に「栃木神社」明治二十二年五月吉日」と自然石に刻んだ石造物が置かれています。このことから、明治時代にはすでに古木として神聖視され、信仰の対象にもなつてていたのでしょうか。また、この木からとれたトチの実は不老長寿の効果があり、栃餅にして食べてましたとも言われています。

ただ、その傍らには、平成十九年に岡山林業試験場によつて実施された「おかやま名木バンク」事業で増殖した、大樹の木と同じ遺伝子をもつ後継樹が植えられ、名木の遺伝子は脈々と次の世代へと受け継がれています。

きくそびえ、地域のシンボルであつたことがうかがえますので、やはり相当古い巨樹であることは間違ひありません。

のびていたものが、一度折れてしまい、そこから再び数本の幹に枝分かれしていったのかもしれません。目通り周囲7mといえれば、平成三年（一九九一）に環境庁がまとめた「巨樹・巨木林調査報告書」において、県内で一六番目の規模となっています。この調査では旧津山市内や旧富村の巨木は含まれていませんが、中山神社のケヤキ（八・五m）や布施神社のケヤキ（七・一m）を含めても県下二〇番以内には入るものでしょう。

高さは近年までは二十五mくらいあったようですが、平成三年の台風十九号により分岐箇所から片方の幹が折損してしまいました。そして、ここ数年は樹勢も衰えをみせ、枝が枯れて折損したり、葉がつかなくなったり、幹も地上数mを残すのみとなりました。あまりの高齢のため、樹勢回復治療も効果をなさないであろうとの診断も得ており、千年の古木もいよいよ終焉の時が近くなつてきてあります。

ただ、その傍らには、平成十九年に岡山林業試験場によつて実施された「おかやま名木バンク」事業で増殖した、大樹の木と同じ遺伝子をもつ後継樹が植えられ、名木の遺伝子は脈々と次の世代へと受け継がれています。

参考資料：「奥津町の文化財」「津山の名木百選」、「岡山の巨樹老樹名木」「巨樹・巨木林調査報告書」「羽出村閉村記念誌」

生涯学習課 口元
電話(0866)54-7733